

北九州フラワー流通センター

「三方よし」で取組む

システム更新し連携進める

福岡県北九州市の北九州フラワー流通センター（三好洋介社長）

は昭和36年に設立。以来この地で切り花・鉢物の卸売業務を行い、生産者と買参人とをつなぎ、花を消費者に届けている。

現状はコロナ禍にあった巣こ

同社が開発・販売するカラフル用土を使用した鉢植え



もり需要が終わり、雲行きが怪しいという状況。生産者、買参人、市場の三者で協力して

ことから、パーソナル情報システムの花ぎクラウドシステムを導入した。

「三方よし」でやっていかなないといけない

同システムを導入する下関合同花市場と徳山花市場との連携も

場長は語る。同社はさまざまに取組をしており、土の代用として保水性を高め着色をしたカラフル用土の開発・販売を行っている。

同市場ではシステムを昨秋に更新した。インボイスに対応する必要があるが、また旧システムのの老朽化もあった

準備が進められていく。市場間での荷物の往来は従来からあったものを一歩進めて、2021年に下関と業務提携。徳山とも合わせて3社が協力して、この体制を整える。先行して下関と徳山が2月からWEB連携しての販売をスタートさせた。北九州も3社連携に向けて進めている。連携すれば生産者は1市場に出荷することで、それ以上の運賃はかからず、他市場でも販売されるようになる。買参人も幅広い荷物ができることで選択肢が増える。

島中市場長は「将来性のあるシステム。人手や物流の問題等があるが、3社が同じ方向を向いていこうと、一歩ずつ着実に進めていく」と前を向く。



システム更新した北九州フラワー流通センター